

**野幌森林公園ではアライグマが増加傾向**  
(平成25年度野幌自然環境モニタリング調査結果概要)

**1. 調査項目及び内容**

| 調査項目   | 内 容  |
|--------|--|
| 森林植生   | 再生活動地における天然更新及び植栽木の再生状況を把握。また、野幌森林公園において良好であると考えられる林相を有する天然林(以下、「良好な自然林」とする)の概要を把握する。    |
| 菌類相    | 風倒被害地、良好な自然林、風倒被害を受けなかった森林において出現する木材腐朽菌の子実体を採取・同定し、森林の再生段階を菌類の面から検討を行う。                  |
| 歩行性甲虫相 | 風倒被害地、林縁、林内において歩行性甲虫を捕獲し、得られる種から風倒被害地の再生段階を検討する。   |
| 野生動物相  | 自動撮影装置を用いた調査を実施し、森林の更新に影響を及ぼすと考えられるエゾシカ、特定外来種であるアライグマ、その他記録される野生動物から、野生動物相の健全性について評価を行う。 |

**2. 調査結果**

**1) 森林植生調査**

再生活動地の植栽木は着実に伸長成長を増し、枝張りも広がってきており、コバノヤマハンノキ、ヤチダモの成長が著しい。天然更新木も種数や樹高を増やしていくものと考えられ、再生段階は「第2段階」と考えられる。(図-1参照) また、良好な自然林として最大樹高：32.7mのハルニレ、最大胸高直径：91.0cmのカツラがあるトドマツをほとんど交えない落葉広葉樹混生林と上層をヤチダモが多く占める湿性地の落葉広葉樹林を調査し林分の概要を把握した。

**2) 歩行性甲虫相調査**

台風被害で生じたギャップに侵入した非森林性の歩行性甲虫の割合は平成19年がピークであり、その時期が森林の中に異質な群集が入り込んだ時期と判断される。それ以後、徐々にギャップエリアの群集も周囲の森林群集に近づきつつあり、回復してきている。

非森林性種は依然残っており、対照

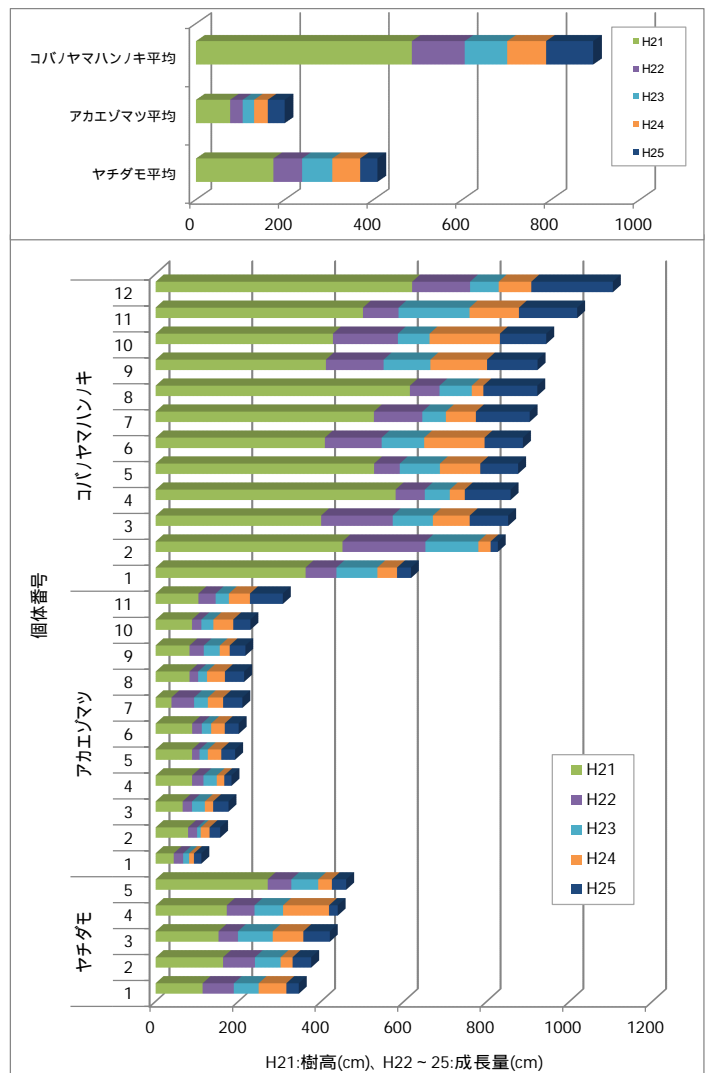


図 - 1 植栽木の成長量

区としている自然林の割合には到達しては  
いないものの、再生段階としては「第2段階」  
であると考えられる。(図 - 2 参照)

### 3) 菌類相調査

処理区において出現頻度に変動がみら  
れた種に着目すると、カワラタケやレンガタ  
ケなど出現頻度が減少し、天然林区や人工  
林区の様相に近づきつつある種もあるが、  
種構成は天然林区や人工林区とは異なっ  
ている。このため、再生段階としては、倒木  
等の腐朽が進んで回復の傾向がみられて  
きているが、「第1段階」と考えられる。  
(表 - 1 参照)

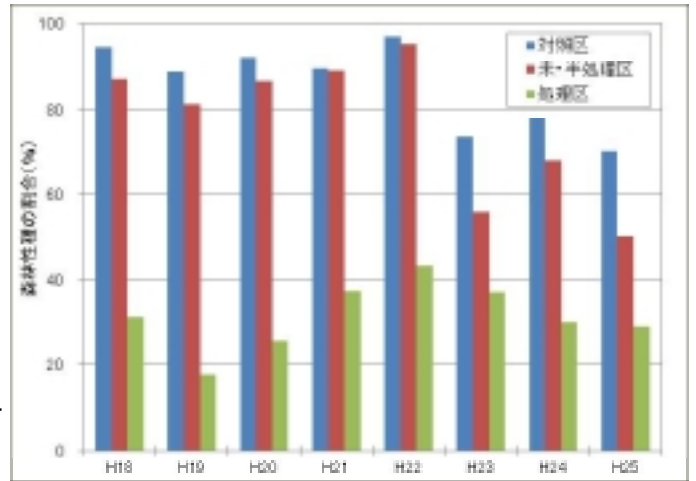


図 - 2 対照区、未・半処理区及び処理区  
における森林性種の捕獲割合の推移

表 - 1 主な菌類の出現傾向

| 種名           | 処理区       | 天然林区 | 人工林区 |
|--------------|-----------|------|------|
| ウスバシハイタケ     | ピーク (H20) | 低    | 高    |
| スエヒロタケ       | 減少傾向      |      | 低    |
| カワラタケ        | ピーク (H19) |      | 低    |
| トマツガンシュビョウキン | 減少傾向      |      | 低    |
| アラゲカワラタケ     | 減少傾向      |      | 低    |
| レンガタケ        | ピーク (H22) |      | 低    |
| モミサルノコシカケ    | 低         | 低    | 中    |
| サカズキカワラタケ    | 低         | 中    | 低    |
| キカイガラタケ      | ピーク (H20) |      | 低    |
| キアシグロタケ      | なし        |      | 低    |

### 4) 野生動物相調査

自動撮影装置による撮影頻度は、  
ほ乳類の数、種類ともに、前年度まで  
の調査結果と大きな違いは見られず、  
生息する哺乳類相に目立つ変化はない  
と考えられる。また、食痕調査の結果で  
は、エゾシカによる痕跡は少なく、現段  
階では森林への影響はまだ少ないもの  
と考えられる。

環境省レッドリストで準絶滅危惧種と  
されているエゾクロテンが今年度も確認  
された。野幌森林は、石狩低地帯の西  
側では本種の生息が確実な数少ない箇  
所であると考えられ、今後の動向が注目  
される。

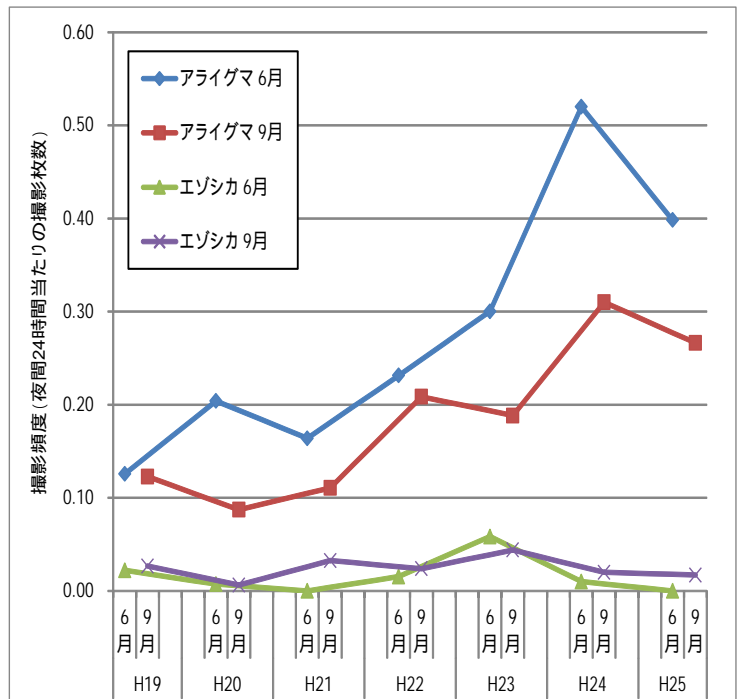


図 - 3 アライグマとエゾシカの撮影頻度の推移

問い合わせ先：北海道森林管理局 石狩地域森林ふれあい推進センター

〒064-0809 札幌市中央区南9条西23丁目1-10

011-533-6741 E-mail: h\_ishikari\_f@rinya.maff.go.jp